

事業計画書

令和 8 年 1 月 1 日から令和 8 年 12 月 31 日まで

特定非営利活動法人隱岐しぜんむら

1 事業実施の方針

地域に密着した自然を通した諸活動を行うことで、最終的に地域資源である自然も保全されるための活動を目指します。

① 自然環境保全事業

観光関係者、環境省、ジオパークなどが隱岐への観光客誘致活動が本格化し、昨年より島内への来島者数も増加してきた手ごたえが感じられるようになってきました。それに対応しガイド等の需要も拡大している背景の中、活用と保全のバランスとして重要な地域資源である自然環境や動植物をどのように保全していくかの計画をしっかりと整えていくことが最重要な課題となっております。そのためには、その現状を把握するための十分な調査が必須であり、その結果から保全すべき個体及びエリアを洗い出す作業の担い手として当団体は活動していく計画です。環境省、隱岐ジオパーク推進機構、各野生生物研究所、地元行政などとの連携を密にしながら、課題の提案を積極的に行っていく必要があると考えております。具体的な取り組みとして、次の 5 項目を今年度の重点実施計画としております。

- (1) 渡りをする鳥類の中継地としての鳥相の調査を海士町金光寺山を中心に実施します。また、島根県の鳥類目録作成のための隱岐地域の調査も継続して実施します。
- (2) 地域自然環境の保全を目的として、今年度中に諏訪湾を環境省自然環境保全地域（自然共生サイト）の県内第 1 号の認定を目指します。そして、環境省や隱岐ジオパーク推進機構と連携強化を行い、2 か所目、3 か所目の目標地域を定め、登録に向けたビジョンの策定にも着手します。
- (3) 当団体が運営にかかる Entō ジオラウンジにおいての企画展を、今年度も引き続き当団体の学芸員を中心に企画運営していきます。地域の自然保全につなげていけるような内容とし、地域住民がより親しみやすい工夫もちりばめていけるよう考査したるものとしていきます。
- (4) 島前 3 町村で放牧地開発における環境アセスメントを実施します。対象としては植物及び希少鳥類の繁殖を行う計画です。
- (5) 天然記念物の無人島星神島で繁殖するカンムリウミスズメ、ヒメクロウミツバメ、オオミズナギドリをはじめとする希少海洋性鳥類を保全するため、環境省との連携によるドブネズミの駆除対策事業及びモニタリングを継続し、地域の生態系保全に尽力します。

② エコツーリズム事業

新型コロナウイルスの影響が収束し、観光客数はコロナ禍以前と同等の水準まで回復することが見込まれます。これに伴い、一般社団法人隱岐ジオパーク推進機構や各島の観光協会、旅行業者との連携を深め、受け入れ体制をさらに強化していきます。特に、株式会社海士とは高付加価値なツアーや造成に加え、多様なニーズに応えるべく、お子様向けツアーやモニターツアーを実施し、2027 年度の販売を目指して準備を進めています。

また、インバウンド需要の高まりを受け、語学スキルの向上のみならず、サービス品質のさらなる改善に努めます。今後はサステナブルツーリズムを軸に、地域住民の生活や自然環境の保全と、観光を両立させるツアーの開発を推進していきます。

③ 環境教育事業

幼児期から高校生までの子どもに環境教育を推進していくために以下の5つの活動を行っていきます。

(1) 自然保育の推進

未就学児向け自然体験活動「お山の教室」は認可外保育園施設となってから9年目を迎え、地域に根付いた取り組みとして定着し、定員に対し申し込み数が多くキャンセル待ちがいる状態です。

常勤保育士4名のうち2名が新規採用のため、保育現場の安定を図る必要がある。今まで継続してきた保護者向けの活動を見直し、新たに保護者と連携ができるように活動を実施予定。

引き続き、保育園を継続していくために、出生数が少ない令和4・5年生まれの幼児の親子移住を海士町と推進していく予定です。

また、昨年度も西ノ島町のみた保育園の遠足や日常の保育活動に自然体験指導者として参加し、竹林で竹を切り出し、園庭に遊具を作るなどの活動をしました。今年度も継続的にみた保育園の保育活動に参加すると共に保育者同士の学びの機会を作るなど発展させ、自然保育を更に推進していきます。

(2) 学校との連携

島前的小中学校の授業において、島根県の「県民参加の森づくり事業（みーもスクール）」を平成27年度（2015年）より活用し、島前・海士町内の森林を通して人と自然環境の関係性を伝えています。また、大地の成り立ち、独自の生態系、人の営みをジオパークの出前授業で学ぶことで、他地域と異なっている地域の個性について学習し、郷土愛が育まれるように努めています。

(3) 自然体験活動

隠岐の豊かな自然環境を活用し、自然体験活動を通して自然に親しみ、その不思議さや多様な生命に触れながら学習する活動を行っていきます。

今年度は昨年に引き続き海士町の小学生を対象として1泊2日の体験活動を予定しています。漂着ゴミや放置竹林といった隠岐の環境問題や保全についても触れ、自分たちの地域について体感的に学べるように計画していきます。

(4) 大人の島留学研修

昨年も島前魅力化財団から依頼を受け、ジオパーク研修（海士町・西ノ島町）を行いました。今年度も引き続き研修内容をブラッシュアップさせ、地域貢献に寄与します。

④ 都市農村交流事業

島外者と島民との交流の場として、海士町の研修施設である都市農村交流センターの指定管理の継続を行います。

宿泊について、高校や大学の教育的な目的の合宿等学生の来島者の受け入れを中心に推進します。さらに、地域資源発掘のための少人数の鳥類・陸産貝類・昆虫類などの研究者および調査員の受け入れも行い、当団体や地域住民との交流にも力を入れます。また、島内在住者への施設利用促進としては、前年に引き続き未就学児対象の森のようちえん開催による地域住民の交流の場や、地元の小中学生・高校生の自然体験等、環境教育及びジオパーク学習の学びのための施設として積極的な活用策を推進していきます。

⑤ 地域住民生活支援事業

地域生活環境対策として野良猫避妊手術支援活動を行っていきます。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施予定日時 (B)当該事業の 実施予定場所 (C)従事者の 予定人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)予定人数	収支予算書 の事業費の 金額(単位： 千円)
自然環境保 全事業	・地域の野生生物調査活動 ・自然環境保全活動 ・公共事業における助言、調 査	(A)通年 (B)隠岐郡内 (C)4人	(D)隠岐郡の 住民 (E)5,000人	4,200
エコツーリ ズム事業	・ジオラウンジガイド運営 ・エコツアーガイドの実施 ・エコツアーガイドの育成 ・地域の観光資源開拓 ・地域の観光推進への助言、 補助	(A)通年 (B)隠岐郡内 (C)4人	(D)隠岐郡内 の観光関 係者や商 店等、来 島者 (E)1,000人	7,000
環境教育 事業	・地域未就学児自然体験 ・島外小学生対象自然学校 開催 ・島内保小中高校環境教育 講師 ・学生、企業、公務員等社会 人対象自然環境研修の講 師及び助言、補助	(A)通年 (B)隠岐郡内 (C)12人	(D)全国 (E)1,000人	26,000
都市農村交 流事業	・島内者と島外者の交流活 動の企画立案 ・研修合宿者の受け入れ	(A)通年 (B)隠岐郡海士町 (C)4人	(D)全国から 海士町を 訪れる島 外者 (E)100人	4,400
地域住民生 活支援事業	・地域自然災害時の支援活 動	(A)野良猫対策支 援活動 (B)隠岐郡海士町 (C)1人	(D)海士町内 住民 (E)20人	0